

婚約破は棄きされまして  
(笑)



**ジム**

侯爵家の料理長で  
エリーゼの協力者。

**アニス**

エリーゼの専属侍女。  
色んな意味で  
なかなかのツツモノ。

**トムじい**

侯爵家の庭師で  
エリーゼの協力者。

**キャスバル**

エリーゼの長兄。  
顔も性格も良くて  
完璧なお兄様。

**トール**

エリーゼの次兄。  
少しチャラいけど  
優しいお兄様。

**ルーク**

隣国の皇太子。  
とある事情から  
エリーゼと  
協力関係を結ぶ。

**エリーゼ**

乙女ゲームの悪役令嬢。  
転生チートで異世界を  
楽しもうとしている。  
前世は佐藤百合子という  
孤独なアラフォー女性。

**ハインリッヒ**

エリーゼの父。  
国の要所を治める  
やり手の侯爵。  
だが妻には弱い。

**フェリシア**

エリーゼの母。  
可愛い顔に似合わず  
鋭いツツコミをする。

**登場人物紹介**

## 目次

|                                               |     |
|-----------------------------------------------|-----|
| 婚約破棄 <small>はき</small> されて（笑）                 | 7   |
| ご令嬢、婚約破棄 <small>はき</small> される                | 8   |
| お家ごはん。とその夜                                    | 19  |
| 婚約破棄 <small>はき</small> ・翌日                    | 39  |
| 身の潔白 <small>けつぱく</small> を証明する！ 全力で！ ……はダメらしい | 63  |
| 初めてジャガイモ食べたから、今日はジャガイモ記念日（笑）                  | 77  |
| 王都での毎日                                        | 110 |
| そして、あの二人の婚姻 <small>こんいん</small> 式の日           | 131 |
| 祝いの日                                          | 145 |
| ラ・ラ・ラ・ラーメン！                                   | 226 |
| 旅は道連れと言っじゃないか……                               | 249 |
| 婚約破棄 <small>はき</small> ・翌日 母親たち               | 263 |

婚約破棄はきされて  
まして  
(笑)

ご令嬢、婚約破棄される

「エリーゼ・フォン・シュバルツバルト！ オーガスタ王国第三王子、ジークフリート・アルベルト・オーガスタの名において貴女との婚約を破棄する」

は？

オーガスタ王国第三王子様よ、本気か？ ……………あれ？

まてまてまて……………なんで王子様？ どうして王子様なんて思ったのかしら？ 大体私に王子様の

知り合いなんていないしね！ 二次元の王子様はたくさんいるけど（笑）

日本のど田舎いなかのさらに山奥みたいところで暮らしているんだもの、王子様と知り合うなんて無理無理無理！

……………いや、でも待てよ……………私の脳がこの王子様とやらは知り合いだと訴えているのだけ……………ハテ？ オカシイナ。

このやたらと煌びやかな場所もなんか見覚えがあるような気がする……………

うーん？ 映画？ マンガ？ 違うな……………テレビ？ テレビかな？ うん、テレビだった。

でもアニメじゃない……………ゲームだ……………それも乙女ゲーム。

大人気だからって伯母おばさんが貸してくれたヤツ。ヘラブ・プリンセス 君こそが愛いとしいプリンセス とかベタなタイトルのやたらと人気声優たくさん使ってたヤツ！

あれだ！ あれのラストの断罪シーン……………つて……………なんでカナ？ 大体私、あのソフト伯母おばさんに返すつもりで……………

そうだ家に帰ってなんかダルいし、ポーツとするから明日返しに行こうと思って、玄関のゲタ箱の上に置こうとしたらフラツとして……………

体が熱くて薄着で倒れたの？ 私……………あんな寒いところで倒れて死んだの？ 一人で？ 乙女ゲームのソフト握にぎりしめて？

それでよく読むラノベよろしく転生したの？ ヘラブ・プリンの世界に？ あろうことか悪役令嬢のエリーゼに？ しかも断罪シーン突入のところで記憶を取り戻したの？

私、何かしましたか？ 神様！ 中学で父母を亡くして祖父母と暮らして！ その祖父母だって高齢で亡くなって！ 私二十四歳から十四年間、山の中の広い一軒家で孤独だったけど、清く正しく生きてきたじゃない！

何よ……………転生してエリーゼになったなら……………もう佐藤百合子さとうゆりこじゃないじゃない……………私、一人で暮らして一人で死んだの……………生活は恵まれてたけど、そんなのあんまりじゃない。そりゃあへお一人様 だったけど結婚したいと思ったことくらいあったのに……………ちくしょう……………

ちくしょう！

転生したらしたので、王子妃になるための教育とか……エリーゼとしての記憶をザッと見たら、あまりのブラックさにへこむわ！

労基があつたらめちやくちや叩かれちゃうなー、こんなのやつてられませんよ。そんなに色々ガンバレませんって。そりやもう王子様が逃がしてくれるなら逃げますって。

よし！ 婚約破棄のつたろ！

お父様ゴメン（笑）

許してね！

「さすがにびっくりしたようだな！ だが、私の気持ちは変わらないぞー！」

おっと、返事をする前に痺れが切れちゃったか（笑）

こらえ性がないなあ、たぶん一分もかかつとらんぞ。

「どんなに抗つても……！」

「婚約破棄、承りました」

「……承りました？ だと……！」

王子がキョトンとしてるわ（笑）

そつちから言い出したんじゃない、後ろにいる小娘が新しい婚約者でしょ？ 早く、それ言いなさいよ。

………チツ、こつちから聞かなきゃいけないのかよメンドクセエ。

「殿下、そちらの方はどちら様でしょう？」

「何を白々しい！ 私の可愛いマリアンヌをこれまでさんざん虐げ侮辱しておいて！」

アホウ！ 何が可愛いマリアンヌ！ じゃ。こつちは五歳の頃から、お前の婚約者やぞ！

婚約者ほつたらかして別の小娘可愛がるとか、ありえへんでしょうが！

まあ、いいわ（笑）

「虐げ侮辱したなど、記憶にございませんが……そちらの方が新しい婚約者になるのでしょうか？」

怒りで顔を赤くしたと思つたら、にこやかに振り向いて小娘を見つめる王子。

「ああ、私の新しい婚約者マリアンヌ・フォン・ドウルテだ」

ドウルテ……聞いたことある、怪しさ大爆発な商会経営してる男爵だわ……

こつちは隣国との唯一の街道を持つてる辺境侯ですけど……しかも国内最大の港まで抱えてるのに……

まあ、いいや。

しかし学園の卒業記念パーティーの開始直前、貴族は大勢来てるけど国王陛下も王妃陛下もまだ来てない状況でやつちゃってさあ！

後の祭だしゲームなら家から追放されるとこだけど、こつちの家族関係は良好だから追い出されることもないかなあ？ たぶん。

「左様ですか、おめでとうございます。是非ともお幸せになつてくださいませ」

「えっ！」

「祝福……してくれるのか？」

二人してびっくりしないほしいわ（笑）

当たり前でしょ、前世のこと思い出したらスーパードラック企業も真つ青な王家に嫁ぐとか無理ですー。

しかも五代前の王太子妃の事件がきっかけで、嫁いでくる令嬢は完全監視のもと子供を産むまでほぼ監禁状態で過ごさなきゃいけないのよね。プライバシー丸無視とか、きついです。

「もちろんですわ。マリアンヌ様、殿下と末永くお幸せに」

ホホホつと笑つて、フェードアウトしよう。断罪とか受け付けませーん（笑）

「では、失礼いたします。ホホホ……」

カーテシーをして、そそくさと……アルエ？ お父様が渋い笑顔でこつち見てる？ 怒つてはい

ないみたいだけど、何かしら？

とか思つてたら、王子が後ろから何か言ってくる。

「エリーゼ、今まで大義であった。辺境侯の娘などという、田舎の貴族令嬢を妻に迎えるわけにはいかなかったのだ」

はあ？ バカか……辺境は田舎つて意味ちゃうんやで……

……つて、お父様がめっちゃ怒つてるわよ！ さっきの笑顔は怒りをこらえてたのね！

今まで婚約者だったから、関税も通行料も安くしてやってたのに知らないわよ！ お父様、やり

手なんだから！

「左様ですか……辺境は田舎ですか……」

振り返つたら、マリアンヌ様ニヤニヤ笑つてますよ。貴女も残念思考の脳内お花畑ですか？

まあ、いいですよ。

私は田舎に帰つて、植生とか色々調べたいしな。場合によっては、内政チートやら農業チートやら飯テロやら、やらかすつもりですから！ せつかくの異世界エンジンジョイしたいので！

私はクルリと出口に、というかお父様に向かって歩き出した。

……もつとも、たどり着く前に出口が騒がしくなってきましたけどねー。残念！

めっちゃザワザワしてるう！ パッカーと海が割れるように、人垣が割れましたわ！

その向こうから国王陛下と王妃陛下が青い顔して、歩いてきてます。

気持ちは分かりますよ！ 宰相のヴァン公爵がお二人に説明してるの聞こえます。

お父様をチラ見したら、黒い笑顔で国王陛下見てるう（笑）

やだわあ、絶対悪いこと考えてる。

真つ当な貴族だし、犯罪者思考じゃないけど、策略大好きっ子で体を鍛えるのも大好きっ子です

からなあ……

文武両道を地で行く男ですから、お父様は！

関税と通行料は正規の金額に戻すだろうし、港の使用料も請求するだろうな。

他にも今まで融通していた物資やお金の色々あるのに、どうなっちゃうかなー。

「父上！ 私はエリーゼとの婚約を破棄し、マリアンヌと新たな婚約をいたしました！」

バカですか！

婚約破棄は本来勝手にできることじゃないんだよ！ ついでに言うと、婚約も勝手にできませ

んわ！

ガチのバカでしたか！ バカ王子！

「……シユバルツバルト侯、すまない……なんで、こんなことに……」

あー半泣き顔だわ、陛下カワイソー！

まあね、この国って隣国はたった一つでね。

国土がスペインの下側みたいな形で地続きになってるのは隣国だけなんだけど、国境にはアルプス山脈かな？ って思うくらいに高い山々が連なっていて越えるのは困難なのよね。

唯一低くなってるのがウチの領の一部でそこだけが谷間みたいになってるの。陸路で行き来できるのは、その一ヶ所だけ。

しかも、海側もひどい。ウチの領と隣の領にだけ、砂浜や港がある。それ以外は断崖絶壁。

下は岩場だらけで、波も荒い。船が接岸できる場所は三ヶ所だけで、うち二ヶ所がウチの領。

そんなところだから、辺境伯から位が上がつて辺境侯になった。っていうことになってる。

田舎だから辺境って呼ばれてるんじゃないのよ、国境に接してるからよ。守るべき王都から見ても辺境だからなのよ。

隣国との間で人も物資も行き来してる分、栄えてるのよ。

港には隣国以外の国の船も行き来してるから、王都より珍しいものだってあるのよ。

………なんか、悲しくなってきた。私、こんなことも知らないバカ王子と結婚する予定だったんだ……

「いや、構いませんよ。陛下、申し訳ないが近々娘を連れて領地に帰っても構いませんか？ ……

どうやら娘は疲れたようですし、先々のことを思えば領地に帰るのが最善かと」

ウワァ……キレテルワァー。

そっと周りの貴族を窺えば、青い顔した方が何人も……大体は高位貴族の方だわ……

「あ……ああ、そうだな……分かつ——」

「では陛下、失礼いたします。エリーゼ、帰るぞ」

はっや！ 被せるが如く、言い切った！

「はい、お父様。私、とても疲れしましたわ」

「そうだろうとも、さあ領都の邸に帰ろう」



いったん王都の邸やしきに帰ってから、近いうちに領都の邸やしきに向かうってことだね。だって、このまま領都に向かうには、ちよつと軽装すぎるもの。

この世界は剣と魔法の世界で色々できることがあるけど、魔物もいるから死亡率りは割と高い。それに疲れたのは本当だし、お腹も空いた。前世なら、お茶漬け食べてひとつ風呂浴びて不貞寝ふてねするくらいには疲れてる。

さつさか馬車に乗ります。対面たいめんにいる、お父様が無言です。……いや、今までずっと無言でしたけどね。

雰囲気わつるー(笑)

どうしようカナー。

馬車はー進むーよー、ガータゴートとー♪

王城から離れまーす。

一旦停止しました！ 城門ですな！ さらば、王城！ 今日のイベントは忘れない(笑)

……とか思ってたら動き出しました。早い。

「エリーゼ、あのバカ王子にこれまで付き合わせて悪かったな」

お父様が謝った！ お父様、なんにも悪くないのに！ あのバカ王子のせい！ 許すまじバカ王子！

「いえ、お父様。お父様がそのように仰おつこる必要などありません」

「フウ……もう少し見所があると思っていたのだが、見込み違いだったようだ」

やっだー！ 美中年の溜息ためいきとかセクシーー！

眼福がんぷくですう！ ゴチでーす！

「あんなにバカだと、付き合うのもためられるな……とにかく、婚約破棄はきを受け入れたのは正解だったな」

「フツ、正解ですか。ありがとうございます、もしお叱りを受けたらどうしようかと……」

いや、叱られるとは正直思ってたけどね。……はっ！ お父様がニヤリと笑ったわ！

素敵！

「叱らんさ、まあ……まさかあのような場で下らない茶番のようなやり取りが行おこなわれるとは予想もしていなかったがな」

「あー、そうですね。私もあのように騒がれるとは思ってもおりませんでした」

あーやだやだ、溜息ためいき出ちゃう。

幸福が逃げちゃうわあ、今日のラッキーアイテムのスイーツ食べたくなってきた。今日の占いかありませんけど。

……おや？ 馬車が止まった……

つてことは、お家に着いたー！ ヤッター！ ヤッター！ ヤッター！ ヤッターマ……言えぬ！

あつぶなー、懐かしアニメのタイトル、うっかり言っちゃうトコだった。

「ふむ、話し込んでいたらもう邸やしやに着いたか。食事を済ませたら皆で今後のことを話そう。よいな」

さすが、お父様！ 分かってらっしゃる。ニッコリ笑顔でお返事よ！

「もちろんですわ、お父様」

お家ごはん。とその夜

やっと王都の邸やしやに着きました。

あー、お腹空いたー。ゴトゴト進む馬車の振動が空きつ腹に響いて辛かったんだ。

腹ペコリーナな私は、ガッツリごはんが食べたいデス！

そのためには、邪魔くさいコルセットを外さねばならない！

私のウエスト五十六センチなのに、さらに絞しぼってくれてるからね！ 私の侍女、優秀だけど容赦ようしやない！

従者の手を借りて馬車から降りたら、すぐ言わないと食堂に直行しちゃう。心の中で、ヨッコイセと咬くはいて馬車から降りる。

「お父様、着替えてきますので少々お待ちください」

馬車を降りようとしていたお父様が、ニッコリと微笑ほほえみましたわ！ やあん、キュンキュンするう！

「ああ、楽な格好にしてくるといい。少し長引くかもしれんからな」

「ありがとうございます。では、失礼いたしますわ」

ダッシュ！ ……はできないから、優雅に見えるように早歩き。

令嬢としての記憶も、前世の記憶もあいまいだけど、思い出そうとすればちゃんと思い出せる。不思議なことだけど、そういう仕様なのかと思えば納得できた。

今も自室に向かおうと思っただけで、体は勝手に動いていく。

ご都合主義か？ とツッコまれるかもしれないけど、事実なのだから仕方がない。

慣れ親しんだ動きで、カチャリと扉を開けて中に入ると、部屋付きの侍女アニスが慌てて駆け寄ってくる。

「エリーゼ様、せつかくのパーティーですのに、こんなに早くお戻りだなんて……どうして……」  
やんだー、涙目の侍女とか可愛い〜じゃなくって、用件言わないと。

「アニス、色々あったのよ。着替えたいから、手伝ってちょうだい。……楽な格好になりたいの」  
「はいっ。コルセット、お取りしますね」

準備をしながらパタパタと駆けていくアニスは、私の一つ下の十七歳だ。

身長もちよつと低くて可愛いんだよね。

アニスと呼ばれて、ゆっくりと衝立の向こうに行くと、シンプルな空色のドレスと柔らかい布で作った靴が用意してあった。

黙って立つてるだけで、ドレスもコルセットも取っ払われる。

何も言わなくても、アニスの動きに合わせて体が勝手に動く。

クルクルと動き回って、ブーツとしてみる間にドレスの着付けが終わった。

「お待ちせいたしました」

「ありがとう、これで心おきなく食事できるわ」

アニスはペコリと頭を下げて、さっきまで着ていたドレスを抱えて消えた。洗濯室に向かったのだ。

今日の日のために作ったドレス。ちよつとしか、着てあげられなかった。でも……そのうち着倒してやらあ！

さあ、ごはんごはん♪

この世界のごはんってどんなんだっけ………素材の味と塩味だっ！ 甘いものはい

えば、蜂蜜と果物だけだっ！

今さらだけどシヨック！

うぬう……料理チートで飯テロは必ずやらかしたる！ 絶対にだ！

それよりお父様が待つとるから、はよ食堂に行かな！ はつや歩き〜♪

食堂到着〜……もう家族全員いるわ……

テーブルにあるのは、骨付き肉（たぶん塩味）、焼き野菜（これも塩味）、スープ（肉と野菜の出汁が効いた塩味）。

はい、我が家の定番メニューですね。切ないわあ。

「では、いただくか」

お父様のかけ声で、皆それぞれの席で黙々と食べ始める。美味しいけど、ちよつとさみしいや……この世界にもハーブとかあるはずなのに、まだ普及してないんだな……食生活が貧しいわけじゃないけど、塩味だけじゃ物足りない。

せつかくのウチごはんなのに、テンション下がる。うん、せめてウチごはんだけでも豊かにしよう！

もぐもぐタイムです。ちよつぴり切ない、もぐもぐタイムです。

ほんのり甘さを感じる肉と塩の味……不味くはないです。

ただ……前世で慣れ親しんだ、コショウが猛烈に恋しいです。

焼き野菜、美味しいな……お塩をバラリ。うん、野菜の甘さが引き立ってる。

でも、醤油の方が引き立つよね！ 日本人的に！

お肉と野菜の出汁がよく出たスープも、美味しい！

でも、コンソメじゃなくて塩味だし！ 鶏ガラでもなければ、和風のお出汁でもない……なんか……なんか一味足りない。

どうしてだろう………

治療魔法のおかげで、医療も進んでない。当然、薬というものがほぼない。ポーションはある、が……あれは薬ではない。

状態異常を治す薬はあるけど、あれも前世の知識で言うところの薬とは違う。

なんせ、錬金術師が作ってるんだもの（たぶん）。

聞いたところによれば……薬草を調合して作るというより、素材と呪文で作るらしい。

ハーブとかスパイスなんて、広まるどころか発見されてませんから！

ちくしよう！ 魔法が便利なのも考えものだな！ 治療魔法が高価じゃないのも医療の遅れに拍車をかけてる。

ちよい傷程度なら、安価で対応してもらえるからね……

小銭だが、ちりつても商売が成立してまーす。つてことらしい。

結構な傷はそこそこ高価な設定みだし、そこはまあ分かるわ。

でもやつぱりね、なんか体によさそうつてことで草とか木の実とか試してみないのは残念だと思ふの。

ハーブ&スパイスつてそこら辺がスタートだと思うのよ。

エリーゼとしての記憶の中には、前世で聞いたことない植物とかあるし気になるんだよね。

いや、この世界の様々なものの名前が日本語と同じつてのがまた……

分かりやすくいいんですけどね（笑）

はあ……とりあえずコショウ欲しい。あと、砂糖。甘いもの食べたい……

出された食事を、やつとこ食べ終える。

……食後のデザートは果物か……ふう………あれ？

果物、丸かじりやん！ マジか！ 皮、剥かんのかい！

思い出してみればこれまでも丸かじりだったり、そこに置いてあるナイフで適当に切ったのをかじったりしてた。

ナイフがあるのになんで………つて、まずナイフの使い道に皮を剥くつてのがないんだわよし！ 剥こう！

リングがあるのに、丸かじりとか嫌！ このナイフ、ちょっと使いにくいけど大丈夫！

………剥けましたー！ 美味しそーう！

周囲の視線が突き刺さっております。気にしたら負けだ！ 食べよう！

え………思ったより酸味があるなあ………でも、食べたことあるような………うーん？ ……分かった！ 紅玉だ！

嫌いじゃないけど、甘いふじとか食べたいや……

終了です。もぐもぐタイムは終了です。お父様が家族を見回しました。

「うむ……皆、食事は済んだようだな。話があるが長引くかもしれん、サロンで話す」

サロン……いわゆる談話室ですわー。なんかね、面倒くさいです。

根っこが庶民だからかな？ いちいち移動しなくてもいいじゃん！ とか思っちゃうんですよ。

まあ、面倒くさくても移動はしますけどね。

そんなわけで到着♪ サロン、オシャレだな。長椅子とかロマンチック。

「皆、席に着いて楽にしまさい。今日エリーゼの身に起きたこととこれからのことを話す」

サロンの様々な場所に、個々人が気に入った椅子が置かれている。

エリーゼのお気に入りは寝椅子でした。ぐうたらですか？ ぐうたらですね（笑）

寝椅子自体が柔らかめで、さらに枕よろしく大小様々なクッションが置かれています。

ただでさえ座り心地がいいのに、パフンとクッションにもたれかかると、うつかり寝てしまいうに……

パーラーメイドが紅茶を置いてくれました。

サロンや応接室がメインの職場となるパーラーメイド、誰も利用しないときは隅っこで立ちっぱらしいです。

大変ですね！ 私には無理ですっ！

ちなみに紅茶はストレートティーです。砂糖もミルクもレモンもないです。

あー午後のやつとか飲みたい。……ないものねだりですね、言ってみただけです。

お父様は一人用の大きめソファですっ、革張りの豪華な逸品です！ カッコイイです！ そんなお父様は、ハイソリッヒって名前です。

お母様は布張りの長椅子に座ってます。可愛い花柄ですが、価格は可愛くないです。あの花

柄、全部手描きなんですよ。しかも長椅子なんて結構な数があります。お母様はフェリシアですよ、可愛いお名前ですよね♪

そしてお兄様、その一。私、一人っ子じゃないんです。彼のお気に入りは、布製の一人がけの椅子です。

肘かけ付きの猫脚の椅子で、ちよつとオシヤレなデザインに見えます。

お兄様その一、キャスバルいいますのん……

そのうちキャスバル兄さん！ とか言っちゃいそうで脇腹痛い。

で、お兄様その二はというと。

布張りの一人がけソファです……この世界のソファって割と高さがあるんですよ。

喫茶店とかにありそうなやつですわ。

お兄様その二は、ツールって名前です。言いやすい名前ですわ。

ウチ、五人家族です。いや……祖父と祖母もいますが、領地の港街（二つあるけど小さい方）にて暮らしてます。

仲が悪いわけじゃないですよ、単に祖母が老後は好きな魚食べて暮らしたいって言い出して、祖父がヨツシャ！ かなえたら！ って感じで引っ越しただけですから。

ラブラブですか？ ラブラブですよ！ な老夫婦なんですよ。羨ましいこつて！ 憧れるわ！

……やだ、お話に突入してない。

「今日はエリーゼの卒業パーティーだったが、ジークフリート王子が開始直前に婚約破棄を宣言した。あまりにも勝手な言い分と振る舞いだっただので、陛下がいらしてすぐにお暇させていただいた。ついでに言うと、領地に帰る宣言してきた」

お父様、簡単に言いすぎですうー（笑）

パーティー開始↓国王陛下祝辞↓王妃陛下祝辞↓卒業生が順次国王陛下と王妃陛下に挨拶↓全員挨拶終了後、卒業生代表として殿下と私が二人で踊る↓通常の夜会へと変わる。

というのが、本来の卒業パーティーの流れだったのよね。

ダンス開始まで時間がかかるから、父親以外の家族は後からやってくるのが普通。だから来賓の貴族も少なかったんだけど……

それでもやっぱり噂好きな貴婦人とかチラホラ来てましたからー。明日には全貴族が知るようになるわ！

前世の世界のオカネットワークといい勝負なんだから！ アナログな分だけなおさらすごいと感じるけど（笑）

「王都にいかなくて大丈夫ですか？ ハイソリッヒ、貴方……外務大臣でしょう」

はい、お母様のツッコミ来たー。

「知らん！ とりあえず、明日王城に行ったら関税と通行料を正規の金額に戻す手続きを進める」

やっぱりかあ、これまで大分安くしてたみたいだからなあ……

「まあ、そうですね。関税も通行料も正規の五分の一でしたから、これで領地も潤いますね」  
マジか！ お母様、ぶっちゃけてますやん（笑）

五分の一は安すぎるよ……お父様、思い切りがよすぎです。

「全くだ、だが陛下は最初、十分の一の金額を提示してきたからな。……ふざけやがって……」  
ぎゃー！ 国王陛下下つてば何考えてんのよ！ いや、辺境侯が力をつけすぎないようにとか考えたかもしれないけど！

ウチは私兵の数も多いから、お金かかるんだよ！ 五分の一にしたお父様、さすがです！ さす父ですわ！

「全く……だが、これで領地運営に余裕ができれば、新しいことが色々できますね」

「兄上の言う通りです」

おお、お兄様たち仲いい。ところで色々って何かしら？

「ふふ……あのダメ王子を押しつけられるだけでなく、大切な収入源も抑え込まれておりました  
が……ダメ王子のおかげで盛り返せますわ！」

オウフ……お母様のやる気スイッチ入りましたわ。

「明日は議会が紛糾するだろうし、キャスバルも一緒に来い。やり込めてやる」

「はい！ 我が領地に有利に話を進めましょう！」

お父様とキャスバルお兄様もやる気スイッチ入りましたー！

「お二人とも、頑張ってくださいね。私は領地に帰る準備をしたいと思っております」

私は私で色々やりたいことがありますから！

「……………そうか、準備か……………」

「はい、お父様」

えー、お父様なんでガツカリ感出してるのよ。何か問題があるのかしら？

……………ぬう……………思いつかないわ。

「領地に持ち帰るものを購入したいと思っておりますの。そのためにも時間が必要ですわ」

王都にしかないものとかあるかもしれないしー、ひよっとしたら誰か何か面白いものを作ってるかもしれないじゃん。

「エリーゼ、私に何か手伝えることはあるかい？」

ツールお兄様が助っ人してくれるの？ 助かるう！

「分かりません。ですが、お手伝いしてくださるなら嬉しいと思えますわ、ツールお兄様」

「そうか、では明日は邸で声がかかるのを待つよ」

ニッコリ笑顔のツールお兄様は本当に優しげで、ご令嬢方が騒ぐのも分かるわ。

……………よく見たら、我が家の人々って顔面偏差値高めなのよねー。

私の顔だって、可愛い系ではないけど美人顔だしね。



「ふむ……特に必要なものはあるか？」

お父様に聞かれて考える。

……うーん？ 植物図鑑とか………持ってないし欲しいけど、売ってるのかな？

よし、聞いてみよう！

「植物図鑑があれば、欲しいと思っておりませんが……」

「また珍しいものを欲しがらな。だが確かにあれば王都でしか売っていないな。いいだろう、トール、一緒に行つて買つてこい。ジャスパー商会で扱っているはずだ」

返事はつや！ さす父！

トールお兄様が一緒なら、お金はお兄様が用意してくれるってことよね！ ラッキー！

ジャスパー商会つて、確か貴族よりも学者や魔術師相手の商売が多いつて噂の商会だ。

図鑑とかこの世界じゃ珍しいし、学園でも見かけなかったのよね。

「エリーゼ、貴女どうして植物図鑑なんて欲しがるの？」

「お母様？」

やだ、思わず聞き返しちゃった。

「植物図鑑なんて、普通欲しがらないでしょう？ 何かあるのかしら？」

ツッコミ鋭いわー(笑)

「ええ、色々調べてやりたいことがありますの。できれば王都ではなく、領地で試したいと思つて



おります」

嘘は言わないわよ！ 本当だもん。

「試したい……一体何を試したいのかしら」

クツ！ さらなるツツコミとか厳しいわ、ナンデヤネン。……これはひよつとしたら、高価な本だからなのか？

そうだよ学園にないってことは、学園でも買えないような金額なんじゃないの？ いや学園にある本は貴族からの寄付がほとんどだけど、寄付するのがもったいないくらいの本とか？

どちらにしても、高価なのは確定だな。

正直に話そう、それが一番早くて正しい気がする。

「そうですね、食べられる植物を調べたいと思います。野菜や肉などと一緒に食べることで、何か効果が得られるものがあるのではないかと」

おっ？ ちょっと興味ありそうな顔してるぞ。もう一押し行っとくか。

「また、何か加工することで食べる以外に使うこともできるのでは？ と思っております」

「なるほど、エリーゼなりに思うことや気付いたことがあつての考えなのね。できればきつかけを教えてくださいとお母様、嬉しくてよ」

きつかけね……言うときも食いつくかもだけど……言っとくか。

「はい。学園でポーションを作る授業がありまして、ある草の汁が手についたのですが、そのこと

に気が付いたのはかなり時間が経ってからでした。それも学友からの指摘によって気が付いたので……その、一部分だけツツツヤしてる……と」

「まあ！ ツツツヤですって！」

お母様食いつきすぎー！ やっぱり美容ネタは食いつくよねー（笑）

「はい、ツツツヤです。ですの色々試したいのです。もちろんそれだけではありません。これは噂で聞いたのですが、巷には怪しげな薬が売られているとか……何も知らないより、知識はある方がいいと私は考えております。お母様、私の我が儘を聞いてくださいませ」

ペコリと頭を下げて、しおらしさアピール！

「そうね、知らないよりは知っている方がいいでしょう。その噂は私も聞いたことがあるわ。……知識があれば対策になるかもしれないのね……」

お母様ったら何か思うところがあるのか、無言になっちゃったわ。

何やら思案するお母様を見つめるお父様。

……やだ……何かしら、よろしくない雰囲気（たまたま）が漂ってる。

「父上も母上も何か思うところがおありのようだ、明日のこともあるし我々は解散しよう。トール、お前は後で父上の執務室に寄って金をもらっておけ。エリーゼ、もう遅い……早く寝た方がいい」

キヤスバルお兄様、何か隠してるわね！  
まあ、いいや！ 疲れてるし寝よう！

「ええ、ではお先に失礼いたしますわ。お休みなさい、お父様、お母様、キャスバルお兄様、トールお兄様」

静かに立ち上がり、挨拶した順に近づいて頬にキスをする。つて欧米かつ！

いや、やりますよ♪ 美形家族にチュウとか映画みたいじゃん♪

「ゆっくり、お休み」

「今日は大変だったわね、お疲れ様エリーゼ。いい夢を」

「安心して構わないよ。私もエリーゼの味方だからね」

「エリーゼ、明日は一日一緒だね、楽しみだ」

お母様とお兄様たちが優しい言葉をくれる。

もう、お父様がちよつびり寂しそうにしてるじゃない。ハア……お父様に向かってスマイル！

……よし！ 嬉しそう！ さつ、寝よう(笑)

はいはい、自分の寝室ですよ。湯浴みも済ませて、寝間着ですわよ。お色気シーンはショート

カットです。サービスなんて、しないんだからね！

……ただ今、一人きりの部屋で一人きりのベッドの上です。

目の前には枕がたくさんあります。ちなみに羽根枕ではありません。この世界に羽毛だとか羽根だとかはまだ流通しておりません。

基本、羊毛です。ヘンなところで古いのです。

今日の出来事を思い返して大きく息を吸う。すうー。

「ふざけんなやクソがあつ！ なんも人前でやることあるかあ！ あったま悪い上に性格まで悪いとか、どうなつとんじゃあ！ ただで済むと思うなよお！ 顔だけ男のクセにい！」

はい、顔を枕に押しつけての絶叫です。つ・い・で・に、枕に思い切りワンパンじゃ！  
バツスウ！

……え？ なんで枕貫通してるの？ しかも二個目の枕に拳が突き刺さってるし。

や……や……やばい！ 私の拳、シャレにゃない！

ハハハ……これは夢だ、夢に違いない。

そうだ、腕を上げてみよう。きつと目が覚めるはずだ。

……あーっ！ 一個目の枕がブレスレットのように腕にハマってる。

しかも二個目はグローブのようになってる。

夢じゃない……夢じゃないよ……ママン……

フウ。ちよつと落ちていて考えてみよう。エリーゼになってからの体力とか、なんかそのあたりを。

……なんか……ご令嬢にしては、かなりアクティブだった記憶が……

なんで、物心つく頃から片手剣(木製)振り回したり、小さい弓で石の鏃がついた矢を撃った

りしてるの？

男の子みたいな格好でお兄様たちと一緒に駆け回ったり、お父様に馬に乗せてもらったり……それだけじゃない……お母様から短剣の扱い方、仕込まれてましたあ！

文武両道はお兄様たちだけじゃない、私もだわ！

黄金の右もお母様からの指導によるものだったわ。オツカナイ女だわよ、お母様ったら。

お父様とお母様は、お兄様たちだけじゃなくて私にも戦う術を教えてくれた。

武器を持って戦う術、素手で抗う術、戦略や戦術まで……人を騙す方法、騙されない方法、各種交渉術……さらに使える魔法は可能な限り高めて……

ベッドの上で息を整え、拳に軽く力を入れる。闘気が拳に集まっていくのを感じる。

腕にハマったままの枕を見つめ、そのまま流れるように拳を見つめる。

「私、鬼のように強かったんだわ……」

思わず口から出た言葉に、ちよっぴりダメージを食らう。あのバカ王子……殴らなくて、本当によかったあ！

まあ、よく考えれば陸側は国境だし山はあるわ谷もあるわだし。

海もあるですよ！の方は、沖からデカイ魔物がやってくることあるから漁師もキレやすくて荒っぽい人が多いしな。

……この国って、ウチと隣の領以外は海岸線が断崖絶壁な上に、海はシャレにならないほど険し

い岩場に囲まれてて魔物が来ない代わりに船も近寄れないんだよね……

魔物が襲うのはウチと隣の領だけだけど、隣は遠浅だから、デカイ魔物は滅多にこないみたいなよねーウラヤマシー。

ウチの領の海岸線だけ、急にガクンと深くなってさ……デカイ船とか入り込めるからだんだん船が集まって港になって……

気の荒い漁師の子どもたちとケンカしたりもしたっけ。

やだ、ヘコんでくるわー。頑張って令嬢感出してたけど、かなりアクティブだったよね。

ただアクティブってだけじゃない、根っこはかなり武闘派だ。

……記憶をたどればたどるほど、見た目は令嬢なのに中身が……中身が残念すぎる！昭和のヤンキー感がヒドイ！

まさに、細げえことはいいんだよ！難しいことは言わねえで拳で語ろうぜ！みたいな……頭はいいけど、気を抜くと脳筋寄りになるって……エリーゼ様……アカンやん。

いや、性格が男前すぎて他の令嬢方からの人気がすごすぎる。ああ……なんか思い出したらダメな記憶がたくさんある気がしてきた……

ダメだ、寝よう！

拳の突き刺さった枕を左手で押さえて抜く。

改めて見ても小っさくないなー厚みもあるわー。

フウ……溜息しか出ない。

続いて腕にハマった枕をソーツと抜く。たぶん思い切り抜いたら中身が飛び出してダメな感じになるだろうからね。

ド真ん中にポツカリ穴の空いた枕を、ベッドの向こうに軽く投げる。

よし！ 見なかったことにしよう！

もう一つの枕をチラッと見て、同じようにベッドの向こうに投げた。

私は何もしてない！ 何も見てない！ たとえ明日、怒られるとしても！

寝る！ お休み！

### 婚約破棄・翌日

ギヤアアアアア。

ギイヤアアアア。

………うるせえ！

ギヤアアアアア。

ギイヤアアアアア。

………うるせえんだよ！ あー、おかげで目が覚めたわ。

なんなのよ、もう！ 普通、朝はチュンチュンでしょうよ。

前世ではホルツホーとかピーヒョロ口とかもあったけど。

………うん？

この鳴き声、エリーゼが可愛がつて餌やつた野鳥だ。

餌の要求鳴きか、なんて鳴き声なのよ。

とりあえず餌やりだ。サイドチェストを開けると干した果物がある。片手で鷲つかみにして、バ  
ルコニーへと出る。

瑠璃色の首長鳥で、見た目は実に美しい。

餌を片手ずつに分けて差し出すと、実に優雅に啄む……頭もよくて人気のある鳥なんだけど、捕まらないことでも有名な鳥なのよね。餌付けして、見て楽しむのがせいぜいだ。

ガッ。

ガッ。

……………どうやら、食べ終わった挨拶らしい。

グガアアアアアア。

ギガアアアアアア。

……………なんだ、その鳴き声……………分かってる、さようならの挨拶だと。

キラキラと光る瑠璃色の翼、長い尾羽は先に向かって色濃くなるグラデーション。

本当に美しく優雅……残念なのは鳴き声だけっ！

まあ爽やかな朝だし、きつと今日はいいい一日だ。部屋に戻って、侍女に支度してもらおう。

つて……………うわっ!!

振り返って目に入ったのは、額に怒りマークがついてそんな笑顔のアニスでした。

両手には穴の空いた枕があり、存在感アピールしてました。

「おはようございます、エリーゼ様。この枕のことは今から奥様に報告してきますね」

!! ヤバイ!!

「待って！ やめて！」

「無理です。もう何個目だと思ってるんです？ 奥様からもさんざん注意されてるのに！ では」

確かにやってた！ かなりの数、穴空けまくってた！

ここで止めたら、説教タイムが延びる！ 私のバカ！ ちゃんと思いついて対策しとかないなん

てっ！ ……………腹を括ろ、女は度胸だ。

うう……………お母様の説教怖いよう……………

報告されました。朝の支度を済ませた頃にお母様がいらつしやいました。

……………お母様の説教は短かったです。ただ、今度穴を空けたら地獄の特訓ね♪ と素敵な笑顔で仰られました。

最悪です。どこのブーツキャンプの倍以上厳しい特訓です。体力と精神力をガリガリ削る特訓です。

……………気を付けよう……………本当に。

さあ！ 気を取り直して、朝ごはんに行こう！

というわけで食堂到着……………そうだ……………ごはんの残念感のこと、忘れてた……………

いかにも硬そうなパン（古代のパンのようだ……………）、目玉焼き（塩振って、しっかり焼いてます）、焼き野菜（味付けなし）、茹でた肉（塩味）、野菜たっぷりスープ（うっすら塩味）、リンゴ

(丸のまま置いてあります)。

この世界では、かなり豪華な朝食です。

……………塩味ばかり、食ってられるか！ 内臓やられるわ！

ちなみに朝はバラバラに食事とるんだよねー。今は私一人でテーブルについてます。

どーしよつかなあ、ツールお兄様呼んでもらおっかなあ？

「エリーゼ、おはよう。今日は楽しみだね」

呼ばなくても来たあ！ 以心伝心いしんでんしんですわあ！

「おはようございます、ツールお兄様。高価な本を買っていただけると思うと、胸が高鳴りますわ」

カマかけたる！ 引っかかれ！

「ふふっ、そうかい？ まあ確かに昨日、父上から渡された革袋はかなり重かったからね。私もドキドキしてるよ」

やっぱりか！ しかも、ドキドキするほど重いのか……ん？ まてまて、それってどんなドキドキよ？

「まあ！ ツールお兄様もドキドキなさってるの？」

聞いてみたら、ニッコー！ と、めっちゃ爽さわやかな笑顔を食らいました！

「ああ！ 結構な大きさの革袋二つで、一人で運ぶのは勇気がいるね。だが大丈夫だよ、エリーゼ

より軽いからね！」

は？ 何言うてますのん？ いつ、私の重さを知りましたん？

憶測おぼそくでモノ言うなや！ ハラタツー！

「私より軽い……ですか？ ツールお兄様……お兄様は一体私がどれくらい重いつてらっしやるのかしら？」

笑顔！ 笑顔よ、エリーゼ！ どんなにムカついても笑顔よ！

「あつ……いや、モノのたとえだよエリーゼ。それくらい重いつていうね」

はあ？ それくらい重いつてどういう意味……つて、なんで、そんなに怯おびえた顔になりますのん？ ツールお兄様よ……

「そんな顔すると、母上そっくりだな……」

ぎゃあー！ どえらいこと言われた！ 私、お父様似なのに！

ビクビクしながら朝食をいただいでるツールお兄様。それをじつとり眺ながめながら私も朝食をいただきます。

まあ、でも金貨なら重いだろ……私とどっちが重いかは、体重計がないから分からないけど(笑)

さて、いつまでもツールお兄様をビクつかせるのはよくない。そろそろ、やめとこ。

軽く息を吐いて、気持ちを切り替えて話しかける。

「トールお兄様、お父様とキャスバルお兄様をお見送りしてからジャスパール商会に参りましょう」  
たったこれだけでトールお兄様は分かってくれた。お兄様も軽く息を吐いて、いつもの優しい笑顔に向けてくれる。

「ああ、そうだね。きっと父上も兄上もエリーゼに見送ってもらえたら嬉しいと思うよ。商会にいい凶鑑ずかんがあるといいね」

こんなとき、家族っていいなあって思う。

「ええ、国内の植生しよくせいについての凶鑑ずかんが欲しいと思ってるのですが……」

思わず出た言葉に、トールお兄様は思案顔をする。

「ふむ……それなら普通の植物凶鑑ずかんと一緒に、地方植生しよくせい一覧表を買った方がいいんじゃないか？」  
え？ 何その一覧表。初めて聞くわよ？

「ん？ 地方植生しよくせい一覧表は初耳か？ 商人やギルド、冒険者なんかも使う一覧表で、結構分かりやすいらしい。これを機に買ってみるのもありかと思ってるんだが、どうかな？」

ナイスです！ 買い一択ですわ！

「是非ぜひとも手に入れましょう！ ありがとうトールお兄様！ 初めて聞くけど、興味深いわ」

テンションが一気に上がって嬉しさが溢あふれてくる。トールお兄様もそんな私を見て、嬉しくなっ  
たみたい。二人ともご機嫌で朝食を食べ終えた。

私たちはエントランスホールでお父様とお兄様を待つことにした、どうせそのうちに現れるのだから。  
たいして待つこともなく、お父様とお兄様は現れた。

「お父様！ キャスバルお兄様！ おはようございます。今日は王城に行かれるのでしょうか？ いろいろ話を晩餐ばんさんのときにでも聞かせてくださいませね！」

明らかに笑ってお父様とお兄様の笑顔が眩まよしい。きつと今日はいいい一日になる。そんな気がする。とか思っていたら。

「貴方、キャスバル……期待しておりますからね」

背筋がヒンヤリするような、静かで威圧的な声が後ろからした。振り向けば、そこにはもちろんお母様。

普段は見た目の可愛さとおんなじ可愛い声のお母様ですが、ちょっとトーンが変わるだけで怖さマシマシです。

空気がピリピリしてきました。そんな中、お父様がカツカツとお母様に近づいていきます。……お父様？

なんと私たちの目の前で、ガツとお母様を抱き締めました！ えー??？ お父様そんなキャラでしたか？

チラチラッとお兄様たちを見ると、二人とも落ち着いています。どうやら、見慣れた光景のよう

です。

……今まで朝は最後に起きていたので、私は初めて見ました。

「期待してくれ、今日はキャスバルもいる。十三年前とは違うし、王家は負い目を感じてるだろう。今度はこちらが有利なはずだ」

……十三年前……私の婚約のときのお話ですね。

お父様の静かな闘志を感じます。お父様だけではありません、キャスバルお兄様からもです。

普段キャスバルお兄様は次期領主として、領地にいるお祖父様と王都にいるお父様の間を行ったり来たりして忙しく過ごしています。

私が学園を卒業したら家族でゆっくり過ごせるように頑張ってきたと仰つてたキャスバルお兄様。

ゆっくりとか無理な状況になって、ごめんなさい。と心の中で謝つとく。

だって私が悪いわけじゃないもん、バカ王子が悪いんだもん。

「ええ、私も出かけなければならなくなりました。朝方急使が来て、今から王妃陛下のもとに参ります」

急使が来たことに気が付きもしなかったわ。

それも今からつて、お茶会の時間でもないのに……

しかも王妃陛下からとか……つてお父様、落ち着いてるわね。

「そうか、一緒に行くか？」

「いえ、別々がよろしいでしょう。お互い話がいつ終わるかわかりませんが」

「そうだな。では、私たちは行くよ」

「はい、行つてらっしゃいませ」

そう淡々と会話をして、お互い頬ほほに口づけてからお父様は出ていった。

キャスバルお兄様も無言でお父様の後ろについていく。シリアスな雰囲気おしやにドキドキしちゃう。

そして、お父様とお兄様の格好よさにもドキドキが止まりません！

「トール、エリーゼ、私も出ます。二人は買い物なりなんなり楽しんでいらつしやい」

そう短く告げると、お母様も優雅に出ていこうとします。

おっと、イケない！ 挨拶あいさつしなきゃ！

「お母様、行つてらっしゃいませ」

「母上、お気を付けて」

扉が閉まる前に振り向き様、いつものふんわりとした微笑ほほえみを私たちに向けるお母様。

「貴方たちもね」

そして、行つてしまいました。閉まった扉を見つめながらお兄様に問う。

「私たちも出ますか？」

「そうだね」



即レスです。さあ、お出かけだ！

お昼前ですが、邸に帰ってきておられます。

ただ今サロンにて、ゆつくり紅茶を楽しみながら図鑑を見ております。

商會はどうだったのだったの？ 行って目的を果たしたら、即帰ってきました。王都を楽しむ？ 無理です。

……………日本の現代っ子として、この中世ヨーロッパみたいな世界は無理でした。

いや、現代っ子と言ってもアラフォー世代とか言われちゃってたわけですけど。

どんなにリアルな乙女ゲーでも、所詮2Dの世界には音はあっても匂いがないのが当たり前。

でもこの世界には匂いが……匂いがあるんですよ！ ぶっちゃけると王都は古くて臭い都でした。上下水道もない、衛生管理もどこ吹く風の世界。

高位貴族の我が家でも、四苦八苦して対応している排泄物。庶民平民の対応なぞ、推して知るべ

し。街中に漂う肥溜め臭……鼻と口を押さえても我慢するのが辛かった。なので、図鑑を買ってすぐ帰ってきました。フウ……お食事中の方、すみません。

……………トイレのある、我が家サイコー！

と言っても専用の小部屋があるだけなんだけど、明るい小部屋に香りの強い花が飾られていて、用を済ませるとメイドが壺を取り替えて常にキレイにしてくれている。

しかもちよつと高いところにある小窓を開けて、空気を入れ替えてくれてるみたいなのよ。

トイレがキレイって素晴らしい！

邸に帰ってきて、真っ先にトイレに行きました。ホント、キレイだわ肥溜め臭もしないわで安心しましたとも。もちろん用も足しましたけど（笑）

小部屋を出たら、メイドがサツと入っていき、蓋をした壺を持って使用人階段の扉へと消えた姿を見たときは感謝しました。

恥ずかしさもあるけど、排泄物放置はもつと嫌だからね！ ……………汚物の話は、もうやめよう。

結局、図鑑は上下巻だったけど余裕で買えました！ 一覧表は思ったより安価でした。

今は私が上巻を、トールお兄様が下巻を見ております。異世界なのに索引はあいうえお順でした。姿形も名前も知ってる植物と、全く知らない植物で図鑑が埋まっております。

イチヨウの木が載ってるかと思えば、ガラの木とかいう見たことも聞いたこともない不思議な木があるのです。興味津々です！

ただ、なんていうか……植生の感じからして、関東から北海道辺りの気候っぽいなよね……

……………そういえば、雪はそんなに多くないけど毎年凍死者が出るとか……………

記憶をたどって見たら、冬場は毛皮のコートとか着用してたわ！ もつと暖かいところに行きたいな……

だって卒業式、九月だったのよ……そのうち寒くなるのよ……つて卒業式が春じゃないとか、変

なところで欧米かつ！

お腹すいた……

出かける前は王都の有名店に行ってみたい！ と思っただけど、心が折れてすぐに帰ってきちゃったし。

さっきから紅茶だけ飲んでるので、口寂しくなってます。………どーしよっかなあ………

バァン！

「えっ？」

いきなり扉が開きました。

反射的に声が出て、音のした方を見ると、アニスがトレーを持って立っています。

………おや？ よく見ると、トレーの上には何か食べ物が乗ってるよ？

「エリーゼ様！ 料理長がケーキを焼いてくださいましたよ！」

は？ ケーキ………だ………と………？ バタークリームすらない、この世界で………？

いや、待て。クリームのないパウンドケーキ的なやつか？ うっすら記憶にある気がする。

鼻息荒く、アニスがトレーをテーブルに置きます。

トールお兄様もパーラーメイドのジェニファーも凝視しています。

………見た目、パウンドケーキっぽいです。ドライフルーツが入っているのが分かります。

ただ、なんていうか……生地はカステラ寄ります。カステラにドライフルーツ入れたみたいな感じです。

目の前に一切れ乗ったお皿が置かれました。もちろんトールお兄様の前にも置かれます。お

腹も空いてるし、食べよう。

実食！

「ただくわ」

パクツとな！ つて、あつま~~~~~！

………蜂蜜はちみつたつぷり、ドライフルーツもたつぷりで、ケーキというより卵黄を多めに混ぜたパンでした。

でも、まあスイーツっぽい美味しさです。

「アニス、これ………どうしたの？」

「はい！ エリーゼ様に付いたばかりの頃に一回だけ、パンに蜂蜜はちみつと干し果物と卵を混ぜ込んだようなお菓子が食べたい。と仰おぼつたことを今朝思い出して、料理長に頼んでみたんです。これ、二個目なんですけどすごく甘くて美味しいですね！」

なんか、知らないうちにやらかしてた！

「確かに甘くて美味しいね。エリーゼ」